



西遊細見



~ 5
1823





松



貌貅百萬向朱明異域
 飛名古城誰以遺材製
 文具猶令筆陳試翰
 羸

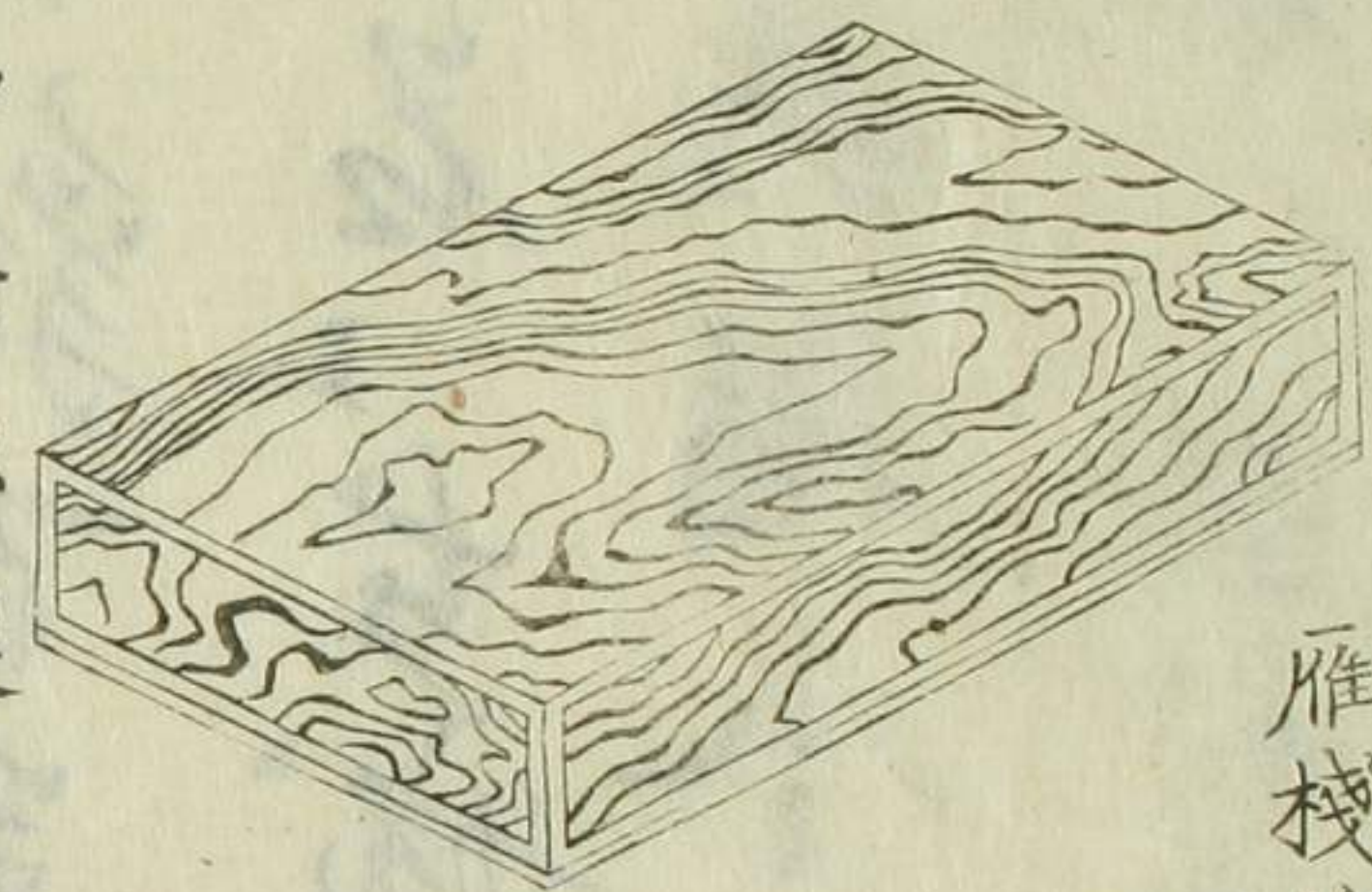
題研匣

郭齊





肥前名護屋豊公高館
障子ノ腰板ヲ以テ造ル

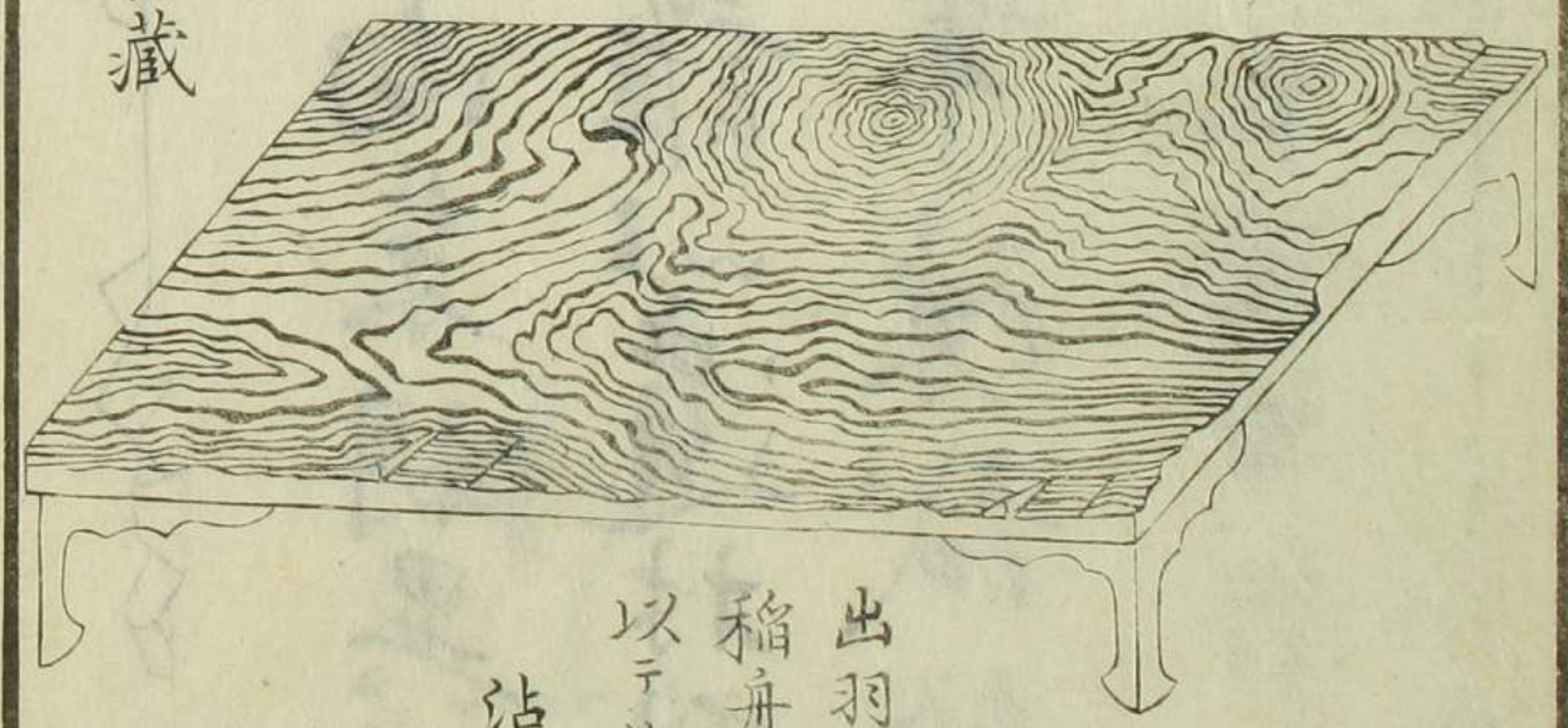


雁棧藏

大同年中ノ竹ヲ以テ製ス

攝州丹生山田千年家梁上物

八千秋藏



出羽最上川
稻舟ノ板ヲ
以テ作ル
沾鳥藏

け文甚や彼何乃舟板を
りく仙如くして

よき法を登神を

川ちとる

千年ある世の釘を御殿
とらふや其梁の舟を削る
耳かきとなきあり

舟乃舟と聞て海を

壽
る壽

浪花
木僊

沾山



肥前唐津藩

ふゆ終る日しあつ老乃冬あまり 八子秋

ひらく神鹿昔出る時雨多 活馬

只白きものとおもひてさるる川 榊原氏 雁扱

雁扱更あつと三何の産ふくく廣まの村を移ふ
従く此乃唐津お住つて風お蕉るぬの道おちとひ
深く其蘊藝を空おむ老くまこと老の身を買
く八子秋活馬の二子け二物を譲るぬらねと合とく 更く

あかの室のいそごひの漫遊お其土よりとるりぬめく
更の看字の橋とく温雅のほ掬よりあふおれく
傾蓋のつらなりとくはるまのころを吐露して清潭教
日お及いそごひの更かの雲お出る予お初おこり
ら〜あこの物を重飛とると年あつとておとす
今既よ六秩を越へく猶ほふるまのあつ子他品か
る志と得る〜あか良美お傳らして活馬の道廣く
つ〜五休の末葉せ〜あつと子徳よあつと
〜あつとあつと長く偏境お朽ぬあつとあつとあつと

属——共の女業を回——かむかむのふいふふふふふふふふふ
 あつ——ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 の厚さあふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 西の二物を——ていふ——棋の地ふ——いふふふふふふふふふふ
 古のふふ神具をふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 予今棋の地ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 らの——いふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 初この程を書——いふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 文化七ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ハ子あ
 屋烏識

とらちとらち

空の菊をふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 筆をふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 はふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 少ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 色ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 としふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 行跡の控をふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

四

河津之入

海之草花

海出之

ふ化七言の

未乃水

カキ巻

木儼



各把袂 あはりの

ふせき一是ハ作クハ別ド

庵十

浦山も芦花も葉の随波も

九瓜

夏をいふと懐くと旅衣

福米

あつたれ 喜々々 新衣葉門

古巢

春柳をいふと易く旅衣

化木

道廣 行亦一歩もふの中

澤芦

那しゆとさしゆとさしゆの人

化笛

蝶しのり人さしゆ日ねうり

湖秋



起卧の癖——西望の家の松 田栖
 月を具ふか以てて厂のわらひ 支雀
 煙を輝きとらむらゝあふま 芝雪
 袖曳き多岐路をよまむ人 六々
 陰の煙を吐く申くりわらう 東芦
 申しよきそとくは布のふん 栖鳥

留別

結句

五月風をけりりり

八千房 屋鳥

五中又いほけ今ふあまて道程非
 うあうううう西のふも又すうく
 印ふ文化七のやよいちの日は海の浦を
 引出しう風波つるうそのうの
 國ふくうはきぬ

あゆむ板にけふ不慮さかきく乳

豊前

まの風子をむかふかいつとまや 中津 其嵐
 昔きありしうき梢う那 猿渡 桂月
 ぬ月やまて定むぬるの何 竹雄
 手枕し毎の集ううかきん 文藝

初蛙は婦く種乃俵

元重

小大房

功系和や人を根字不吹き

豊秋

よき人よ送 霞ききり 暮山

麻生

木珠

境く水見 控き 念ハ せりり

嗟来

晴ききき 話句 詠きき 踊きり

儿卜

笑ききの 較も 志れきり 信しき

青嵐

粥杖や くれくれ けいけい

難村

三大房

剣つゝ 魚あききき 梅白入

楠本

古鳳

まわりの人ききき 人海淋

石馬

三月曲

何ききき ねききき さまは 啼めり

山ききき 動く 二月

四日市

露竹

籠のりや ちりり ぶききき けい

女

露菊

みーり けい 人ききき 告ぬ 鐘のり

来同

おききき さまは けい けい

吐屑

後々 船瀬 けい けい

別府村

佳節

まききき けい けい けい

六辛島

子琴

初 霧 けい けい

沖洲

露時雨

梅の多やみ山の上記 瑞々家
杵築 砌下
 多々葉の枝より 曇り二日月
 多々やふらぬり 山 青容
 多々けの 山 菊男
 傘の 人の 彩石
 新の 夜は 蝸若
 黄き 老い 烏雪
 何亦 ても 月孤
京行脚

偶成

夏は 夜は 是 柳の
日出 晩成
 知人 木更
 秋 素雪
 多々 夜は 夏 太一
雀見
 多々 合 李蹊
別府
 多々 花の 野 秋水

世の中 の 松 白若 松
貞保 多々 伊 多々 海 畔 の 松 多々

を鳥子
 秋らうて

涼
 杉の

別府
 貞保



實 國 一 と お 柏 金 立 何	々々々々人々々々山々峰々々々 々々々々水吹々々々々嶺々々々 々々々々や取々々々々画々々々々 々々々々々々々々々々々々々々々々 々々々々々々々々々々々々々々々々 々々々々々々々々々々々々々々々々 々々々々々々々々々々々々々々々々 々々々々々々々々々々々々々々々々 々々々々々々々々々々々々々々々々	赫 渭 子 周 錦 可 桃 窟 湖	々 水 孝 禾 江 秀 洞 負 外
---	---	---	---

植田
 賀素

湖外

枕鳴やまゝ夜涼よふ沙 女 千州

る所り心着とすくみと虫みん 萩原 巨川

わつ牛やるも癖の付安 三佐 東陽 語山

花のそむいし水糸の 哉とろ

牛やうは抱きて終るかろあり 龜方

耳波ふ世もおーや印とまは 伊与行脚 春甫

夕ぬる葉積ふあふく動さかり 雀崎 掬泉

総ぬこやなほおも 映入るより 乙津 楚江

楠の風きくくくやうくくく 阿波在乙津 蘭里

元日おあらしそ 杉水島 神崎 一雲

ちくくくくも鐘くけくくく 佐賀園 凌波

瀬高菴かもうく 此史ものきてお備

いんこくく 細川竹基のわがふ

白里く争つらうくく 此浦

あううくあううくく 此

一重凌波の二子と世渡りおくく 此

まゝくくくく 七通くくく 瀨水名も吹 吹

まゝくくく 枝くくく 杉の月 白杵 嗅英

葉造る屋くく 旭のくく 吐洲

よりまゝくくくく ちくくく 南溟

有るけし月おほく山さくら花 斗鐘

夏のりやふふ赤き 物の味 桃宇

昼食の難く 嘆く早き心 萬水

世の中とあはれと 悲しき夜 峻英

月見るやふふ 嘆かして 六合

佐伯江南社

何ゆきや 晴や 夏月の花 秋圃

ひらき 春の如く 又さき 月 寫月

ふり 汗を流し 流し 芦舟

ちり 田毎く 小 菊 把水

物お けし 朝のけし 庚子 桃秀

白き 月入る 道 紫暁

全江北社

朝夕の風 涼き 青田 繡虎

新月や 桜の 汐 三顧

ま くの 業とは 是非 虹橋

お 風 秋の 暮 都雪

四 五 枝 竜枝

初とや旭のあけさすやと後 一聲
尋事如曇りてらなり 時多 白扇人 其一

夏夕

折るる花をさすやとさすやと

飛子着るる始免の程は不自申 堅田 芦江

かゝるる花吹合せりて 表の地 津久見 富舟

まゝおれ 暑き日は月少様とあり 宇目 機柳

分別の外より 出たり夜の月 虚岫

一口と酒ふかえりて清き心

身をいかにと何と帯の夜蝉 帰白

あゝとぬ里ふりてとと若清水 緒方 巨井

偽りて次書りてととと 佐保友

夕日影葉はととはと枝あり 岡竹田 傾丘

月逃く 山の花はふととと 富上

花曇りてけりてととととと 可穎

か中へととととととととと 笛躬

日影より 枇杷葉湯の掬い 呉蹊

大塔の道ふととととととと 虚白

苦熱

何はまりとわねふよこふ流きくる

黄ももきぬ美あり暖味の敷 斗林

名りやや中しゆんとき 甘三

有りお新まぬ花のうしろ 山棠

負しき世ふり梅の暖きあさ 嵩二

涼風の透らふまらう 其仙

石井やむまぬ葉の細きより 蘭什

川隈や家のうちまを飛ほし 語文

一夜酒まもあしき 可逸

くふおまらうらうらう 貴梅

日の影れをり見えぬわらわ 有江

ゆきんたきやけゆく 至元

本帰らう馬またらぬ女も 純素

りり井お心と流ふ日あり 鳥栖

晚涼

工まらう涼しきまらう

御後らうらや稻のまらけに 李園

門田

三宅

平田

惠良原

在岡植田

在岡窪崎

全

此夕大和穴井廻小秋雪江秋大形秋紫夕秋三本松秋琴調秋小宛秋嘯月秋福園秋淇原秋淇原秋一枝

盈大形秋紫夕秋三本松秋琴調秋小宛秋嘯月秋福園秋淇原秋淇原秋一枝

木三本松秋琴調秋小宛秋嘯月秋福園秋淇原秋淇原秋一枝

夕小宛秋嘯月秋福園秋淇原秋淇原秋一枝

明福園秋淇原秋淇原秋一枝

味淇原秋淇原秋一枝

夕淇原秋淇原秋一枝

初秋

旅淇原秋淇原秋一枝

君淇水秋淇原秋淇原秋一枝

涼楚津秋淇原秋淇原秋一枝

う楚津秋淇原秋淇原秋一枝

青森秋淇原秋淇原秋一枝

の楚津秋淇原秋淇原秋一枝

と楚津秋淇原秋淇原秋一枝

龍門の滝も天下の奇蹟ありと云請仙
のふらふらと云うも何れもふらふらと云う

天の河のきと流るるもあきら

門戸畑秋淇原秋淇原秋一枝

章花

夜をきく白菊の心かえり 鳳翠

夕暮の心かえり 日田隈 葵亭

風をきく 有篁

傾城の夜をきく 仁里

いかに秋の心 両方

草や又待きき 全豆田 切瑳

百をきく 湖時雨

川をきく 蘭雪

三月の心 鋪所

春の小唄 南葉

秋風の心 桃秋

月をきく 垂蘿

馬をきく 月化

秋風の心 秋風の心

世の中 世の中

撞をきく 高野 魚舌

筑後

白く渡る人の出りく少あは

生葉
八十叟青々

新たりや同くもなまらざる

楚南

好のあはれ中へふまをむ殿う那

古天

ふあふ夜の天氣のあふり斗を

四洲

夕風や木槿流るる門の川

如件

遅り奉ると申すは拂り所の代純
体たふふれ件功ふらふらなる例不
小きまふのあれ進むの本槿採葉え
とこころにほのりあふまらぬ

日も控ぬまのよ木槿は影ほら

志中十里真夜

天のけり人へ渡る人な路の中

暑きりや水音もなまらざる

吉田町富山

ありきとれ行もよる夕暮

惠利鉄舟

短夜はほらしるきまの目

片之瀬
七十五叟可羨

賀茂川のあまらざる風

高島其程

秋まらざる白いふらほらま汁

車月

二之尺月はほらまらざる

晴石

家毎に字をあらはるる

伏見行脚李曉

影もほらまらざる

府中雛鳩

高良山
桃青霊神をねまらざる

桃青

大切なりけり

新町の火くは

久留米

芦月

〜〜〜

杜有

肥後

夕白下夏に佛の立とて後

山鹿

駒童

梅干に

熊本

一壺

野火に

砂童

稲妻の

宇土

呉橋

白き

和橋

鐘花

火くは

土人云例歳七月小盡おれ廿九日一夜大盡お

き廿九日晦兩夜も出し一晩の町を火くは

ち夜の町を火くは

わらわら

あつた

二三日

人々

あつた

火をきても大洋の波上ふもえんやあつたのらや
 しらねあつた島原天多くわきれたる坂辺より
 島へしと山へしと山へしと四百里う程知る海平
 ちしと火をきても水底ふあつてくもえんや
 水もつた波のちあつてくもえんやゆるる
 ちへんちへん山より下へしと船へしと
 却へしと見えんやととと寅の刻も後もて
 船のちあつた山へしと山へしと山へしと
 ちへんちへん山へしと山へしと山へしと

松林の山よりと山へしと山へしと山へしと
 船のちあつた山へしと山へしと山へしと
 海上二三里うかちと山へしと山へしと山へしと
 ちへんちへん山へしと山へしと山へしと
 のち天ふ没も山へしと山へしと山へしと
 ちへんちへん山へしと山へしと山へしと
 ちへんちへん山へしと山へしと山へしと
 ちへんちへん山へしと山へしと山へしと
 ちへんちへん山へしと山へしと山へしと
 ちへんちへん山へしと山へしと山へしと
 欺へんちへん山へしと山へしと山へしと

路下の石葉の句下

ま〜ぬらや舞一人をきれおの風
けふの人を膝をきりて言のかたきま
あ〜こけりて〜人あふさ〜

ふまの夜を〜ぬらや舞一人をきれおの風

ふまの夜を〜ぬらや舞一人をきれおの風
ハ代 文暁

秋のさなま〜ぬらや舞一人をきれおの風
萩里

渡舟の曳り〜ぬらや舞一人をきれおの風
天草 乙馬

い〜ぬらや舞一人をきれおの風
来子

ふ〜ぬらや舞一人をきれおの風
散木

肥前

暮のつら〜ぬらや舞一人をきれおの風
島原 春喬

涼〜ぬらや舞一人をきれおの風
霞林

暮〜ぬらや舞一人をきれおの風
諫早 文塘

竹〜ぬらや舞一人をきれおの風
干波

春〜ぬらや舞一人をきれおの風
梅路

鹿の音の〜ぬらや舞一人をきれおの風
古賀 蟠龍

狭道の〜ぬらや舞一人をきれおの風
一素

古賀旅泊

寛も〜川折も〜麻きく〜任お〜

長崎

新〜〜に〜れ月の山を〜うぬ

蘓十

教修也吾下子押〜〜あの門

竹麿

桐一葉拾〜〜あの角

天外

名月下少お〜帰〜志賀の也は

祥木

名月の物も桂も教本可を

其映

丁と待い〜ち〜月の入る

在崎陽
江戸

月菴

武名野の高の世界や月〜〜

吾九

瓊浦十五夜

名月の海を浪もふ〜〜

名月や木〜〜のあ〜〜延〜梨

阿波行脚
夷柏

〜お書〜〜ハ夜〜〜の月

唐津藩
素竹

む〜〜あ人〜〜あ〜

海鷲

〜あ〜つ〜あ〜あ〜

退歩

瘦〜〜の何〜〜の月

舞雀

群〜〜の小〜〜の海〜〜

全市
離拾

本城前人の出〜のれ〜〜

浮澗

文松〜の〜の菴〜〜の南

伍人

はすきまきましくつらさるるもふり
 川のき二夜もさるるのき
 月をりや影影のき水はき
 月の舟はくぬきさるる網もくぬ
 糸ふさふさふさあうりさる
 三々くぬぬきさるる色
 二つ三つさるる今年の波をき
 芦喬
 蘭秀
 全在 園雄
 壺轉
 其流
 小夜秋
 龜溟

名護屋豊公古城

八月や腹のほゆるき流はき音

辛し味もかきし秋の月夕の光
 夕暮り水落るるも海もさるる
 朝霧の曳流るる二神島
 明日やさるる曉の花もさるる
 夕暮りや流るる山も秋の音
 葉もさるる向く流るる柳も
 何れもさるる人も流るる秋の音
 水濱や流るる水も流るる
 橋もさるる水も流るる
 乙照
 扇山
 路的
 夏北
 慕
 鯉遊
 八代亀
 襲
 魯月

江行

月波や少右海を松浦川

下横田

待もや昔もなれ二三尺

濱崎

峨

あれうちふ人まはれははる

濱崎

栗隣

許養を去藤とてか子烟

洞上

壺山

筑前

福岡

投細のま操ややく冬終るれ

延翔

神代より夜啼は秋きりしは

玉峨

山言も昔もはるの依家う那

鄭秋

菊のまはるるももももも

杉猿

早福のふれはるるれぬひひひ

月平

廻りうあふ控一葉山子

飛蝶

行移やこの先ハまゝ神守月

四軒

十三夜 あの中

月波月一足をさ潮

今百道社

崇周

夕風や何よも鹿は足

啼ぬおまもも鹿の足

佳亮児

傘おまももななりぬ尾の

未央

箱崎 子代の松原

松原や是より先は秋のふ

博多

自由菴

野の音の海も見えん

心まのこつ屋もふや

厄詞

もひきりて路も立入り

吾来

秋起しにん所もあふ

石池

まの櫛ももさうのまはる

吾雪

十六夜を秋の下の月

可丁

空月もさうもくも

民来

け秋の音もさうなり

尾張行脚 由肆

軍府聖廟へ訪し九月九日あり文の
むし宗祇法沙を結ぶくつのはれ
菊ももも梅ももも白ひの那
かくはるえも文化のこころにけり
うねり予の菊の日らへるあせいの
孫うらり人さうく廟にお梅をりて

梅の樹もさうなり

まの月見んとさうはつじ

菖生

卧山

さうもさう持あやさうし

大石村

五朗

山原もさうもさうの暮

武丸

泉左

あつちのさうもさうの

須惠

雲平

月代やしり一板 菊おの 木月 蘭八

福妻 木守 丁

是 芦屋 再可

相 吉田 撫節

中 直方 春江

九 陣原 馬來

花 黒寄 吾成

何 康哉

あ 神

啼 鹿 神 杉 曉

わ 神

相 小倉 不 國

鴨 石亭

ん 括囊

定 括囊

門司關

本

赤馬関

硯 ともか人のうららきを掃く千尋

やうしうふ移りし月夜に 下ノ関 目磨

新しきや文了らるる浪の音 瓢流

木枯し吹捲らるる細き月 仙露

仙露は一流の風まよいて五牛のつよ
おろりの海ありて舟の音まよ五日
のやうしうふ移りし月夜にの便船しり
おろりの海ありて舟の音まよ五日

船上

ともしは思ふ所の人なりり

十月中の三日おのれに
おろりの海ありて舟の音まよ五日

寒くしうららきいふあはれ

歸菴之頌

そとに火桶およりし 東門

霜やぬるるをいふ 百嬰

あはれをいふ 羅文

帰りにいふ 春耕

あはれをいふ 三湘

出づるをいふ 棋明

あはれをいふ 鷺雪

冬は暎り一映るぬも表あり
お春の節りさきもみそさね
下駄とりの人さか——初三さま
穢千——香月さきさきさき
雪は木の押出さねさきさき山
大川の吹雪さきさきさき
賢之

書信

梅雪さきさきさきさき
可もさきさきさきさき
右橋

作、勝山

櫻左

暫さき眼さきさきさき
梅の花ぬさきさきさき
冬の月度さき山さきさき
さきさきさきさきさき
撞つさきさきさきさき
雪は霜はゆのさきさきさき
秋枯さきさきさきさき
葉や鶉飼さきさきさき
さきさきさきさきさき

里翠

雪、廣瀬

闌

孤舟

今母里

冬曠

冬澤

冬葵

伯、米子

亞草

倭風

五葉

袴着よりふくふくしり里神楽

備中松山

初〜〜と出て出る水菜賣

全新見 三世房

木〜〜と通やる色は月凄〜

備前金川 笑水

多叫い〜〜と向〜〜と中

作西川 李杏

是〜〜夜をま〜〜とけ〜〜と啼〜〜と子多

市瀬 松雄

松たけを〜〜と眠〜〜と山

下方 朝竹

と鳥も啼〜〜とあ〜〜と山

美甘 麻三

あゆみ旅〜〜と世あり〜

天王 覽柳

木〜〜とけ〜〜とわ〜〜と松〜

新庄 一芦

雀〜〜とかり〜〜とみ〜〜とわ

久世 千春

申〜〜とや〜〜と幼〜〜と樹〜

落合 舎柳

較喰〜〜とむ〜〜と結〜

福渡 停伍

お〜〜とわ〜〜と出〜〜と枯〜

一春

る〜〜と上漕〜〜と解〜

豫、宇和島 静山

志〜〜とゆ〜〜とけ〜〜と木〜

全吉田 子鳳

仲夏の夜〜〜と別府の温泉〜

美柳〜〜と結〜〜とあ〜〜と修〜

全伊方浦 听牛

米喰所 鯨とありきよ朝の高
 本免まう〜ろん〜ま〜神叩
 多汲う形〜もま〜はハの志
 軍取のあ姿又れと新なる
 泥ま〜作 夥れ青きく 門田心
 節は霜日の衰及ハ忘れりり
 かくれあもむ〜り出ま〜り雪の音
 静〜れ〜るゆゆし房もハ夜に
 埋火の響 一〜次ぬ 國の冬
 可久連房

全道前 白雅

在撰 唐津

全 牛丸

全 机山

豊 菊里

全 吐龍

和 圭

林糸

全 其雪

全 可久連房

河内 富田林

小田輝

一〜ま〜む〜る〜月夜う那
 鐘求〜むね〜榎れ美〜る〜
 朝風れ柳よけり〜小〜る〜
 人の〜る〜ま〜入〜一〜
 梅さ〜る〜探〜梢〜ゆ〜
 口〜糊〜ま〜お〜
 陣出せ〜け〜
 夜の暮れ低〜に付〜
 奇淵

河内 富田林

小田輝

芦江

八千里

燕之

尺艾

左逸

升六

奇淵

今年八千詞宗明年ハ予 結西〜お〜

雪は松のふもとにや灰せり
雪のふもとにみはれは雪の降
樹も常の寂しき松把の足
かえりけり古道ふそく又は月
小野山を冬ふなりしそ言ふ辰
寒く菊の並ぶところふ雪まき
神もあけ毎の夜や詠訪は海
梅のふもふまはるるの糸車
小島ついでふそくと同るも面を

万和
三津人
矩随
銀獅
鶏城
井眉
竹齋
東隄
田美

吹あてし風よく様う那
傘は下を揺りたり夜の間
霜踏く麻の糸らく暮ゆふ
山を吾九うもあゆのうらさ 佐野の草まかりふに
由肆う北筑の和語よ あけのや風もやふ埋もれ
蒼けし雪ひくき中一人も暮る
名もや瓜けきもる竹の奥
山も暮れ起きしやうま
教入ハ山もふそくよふそく

釣翁
米彦
月江
春蟻
士朗
竹有
岳輅
梅間
月底

佛水の句帖を探りて
山里に月日を去りてふとて

伊豫 樗堂

白雲を渡る鳥の浦の台ふり

相模 葛三

田植えんまをよすに以や菴の煤

行脚 木海

牛の子やひ夜婦をねいふはあ

河内 寒屋

名優はふりてき 律う角

河内 耒耜

重傷浪舞の魂舎うれり
即事

追梓之部 和高取 方馬

お宿の菊おこい中人節うい

子剛

おもふ人うらうらうとてあはれ

全今井 魚俵

世の中は名はかきうらやあはる

夜のぬぬ目まふれとて書のは

小豆島 梅良

大根切きとて夜走のひりあり

作勝山 紫水

風おふいふとてあはれ小まは

豊前深見 寂齋

川さきのさしふはれ

全板場 青鳥

あうらうらや移飛けくねの山

備金川 山水

くさくさ酒め走の河も苦あはれ

雲廣瀬 杜之

田舎出の村も密柑もあしの市

全松江 桂

袴着は月日うらうらとてあはれ

伯北条 惠水

暮あはれとてあはれ

塩飽 湖嵐

夕々枯やまがけ川の勢の串
常々み華々しうし走の芳をとり
岡々——我が家の山崎申うん

下之関 羅風

和綿弓社 桃秋

雪廣 玉水

歌仙一折

佛水

頼母——き月おあやまの子

杜のえう——まよ入鳥

屋鳥

智くそ跡生おあまら持とらん

水

碓の鳥——うらう言方おあま

鳥

けふはけは志まら出まら門の月

水

まころふるうもや——とまら

鳥

肥後其まらとらけまらいふまら

水

他町お泊らふ門のとけはく

鳥

うき人ま小皿の水とらうかふせ

水

まらふつんき——と物成合せ

鳥

夜麻をはけらま約山

水

まらと火あらふままらうまら

水

松塚のまらと棺をけはらうまら

鳥

まらおあまらうまらあまら

水

おくきる友のむらうもかきせく
鳥

状投 せきう せきう 伊と船
水

夕月ふお山の花のむらう
鳥

旅一 風紙 捲 捲 執こふ
水

全 月化

踊児のうけ 葉よりも戦くこ
屋鳥

月よ掃 せき市 中の巻
化

木暮子のほはほし 社のきええ
鳥

牛一の畑工のまう 利と括る
鳥

いっそも 国をまわし みるき
化

ゆき みる 海 舟 くる 船
鳥

ふ曳の董 姉のゆく みるき
化

上総木 津の尋 ねて 見人
鳥

沼とらと みる 娘の 癖
化

一 眺り みる いたて せき
鳥

夏書と みる みる みる みる
化

嗚 哭 友の 中
鳥

賀茂川を みる みる みる みる
鳥

寒くくくくくくくくくく

化

ちらくくと豆売焚う面ふく

鳥

胡産かゝ福え抱お味あ

化

毎年の花おふくきの何くたまり

鳥

又山ふくの産すれあけ

化

全

木僂

木枯る見え透約の蹄う那

位濃めくくく押くく冬

屋鳥

一くくハ金高人る出立る

素袍着くくく君くくく

僂

月の新産の粒皮を打く魚

鳥

中へ福おふくくくく

僂

掌のくくくくくくく

鳥

あつ端くれのくくく

鳥

漸くふくくくく

鳥

兵士くくくく

僂

けりくくくくく

鳥

喪くくくくく

鳥

狂言御摺物萬板木師
 大坂心齋橋筋南本町
 松井忠藏

俳諧集冊
 御銀札
 御印判
 金銀銅石印

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

